

2022年4月10日
礼 拝

聖書
マルコ福音書1章29～31節

1:29 イエスは会堂を出るとすぐに、ヤコブとヨハネを連れて、シモンとアンデレの家に入られた。

1:30 ところが、シモンのしゅうとめが熱病で床に着いていたので、人々はさっそく彼女のことを見つけてイエスに知らせた。

1:31 イエスは、彼女に近寄り、その手を取って起こされた。すると熱がひき、彼女は彼らをもてなした。

説教

ペテロの姑の癒し

ペテロ伝、ペテロの信仰の歩みを学んでいます。
今日はペテロの姑の熱病の癒しを
学んで行きたいと思います。

福音書でペテロが登場するのは
第一はアンデレの紹介でイエス様に出会った。

その時ペテロ(岩)という名をいただいた。

第二は深みにこぎ出して網を下ろしなさい。

疑いながら、否定的な考えで網を下ろして見るとおびただしい漁で舟が沈みそうになり、ペテロは、私は罪深い人間です。私から離れて下さい。

イエス様は、怖がらなくともいい。これからは人間をとる漁師になる。

ペテロは何もかにも捨ててイエスに従った。

ペテロが登場する第三幕はペテロの姑の
熱病の癒しの出来事です。
(ここでは直接はペテロは何も語っていません)

このペテロの姑の癒しは、マタイ8章14～15節
「8:14 それから、イエスは、ペテロの家に来られて、ペテロの
しゅうとめが熱病で床に着いているのをご覧に
なった。8:15 イエスが手にさわられると、熱がひき、彼女は
起きてイエスをもてなした。」

マルコ1章30節

1:30 ところが、シモンのしゅうとめが熱病で床に着いていたので、人々はさっそく彼女のことをイエスに知らせた。

1:31 イエスは、彼女に近寄り、その手を取って起こされた。すると熱がひき、彼女は彼らをもてなした。

ルカ4章38～39節

4:38 イエスは立ち上がって会堂を出て、シモンの家に入られた。すると、シモンのしゅうとめが、ひどい熱で苦しんでいた。人々は彼女のためにイエスにお願いした。

4:39 イエスがその枕もとに来て、熱をしかりつけられると、熱がひき、彼女はすぐに立ち上がって彼らをもてなし始めた。

マタイとマルコはペテロ、アンデレたちが
何もかも捨てて
漁師をやめ、家族を捨てるような形で
弟子となって行った後
イエス様によるペテロの姑の癒しが書かれています。
ルカはペテロの姑の癒しの後、不思議な大漁、
何もかにも捨ててイエス様に従うと言う順に
書かれています。

マタイとマルコは時代順に書き、
ルカはテーマ別に書いたので前後したと思われます。

マルコによりますと1章18節でペテロ、アンデレの兄弟は何もかも捨ててイエス様に慕って行きました。

そのすぐ後、1章29～31節でペテロの姑の熱病を癒やしています。

ここから分かること。
イエス様はカペナウムの会堂で教えておられた。
そこで悪霊に憑かれた人から悪霊の追い出しがされ、会
堂を出て、カペナウムにある
ペテロとアンデレの家に行かれた。
マルコでは一行はと書かれ、マタイ8章では「それからイエ
スはペテロの家に入り、彼の姑が熱を出して寝込んでいる
のをご覧になった。」イエス様がペテロ宅へ行く音頭をとつ
ています。
なぜペテロ宅へ行こうとされたのでしょうか。

ペテ口には奥様がいました。結婚していました。
奥様のお母様もペテ口宅にいました。
娘の嫁ぎ先で同居していたのか、
近所に住んでいて、たまたま娘宅を訪問、滞在している時
に熱病になり寝込んでいたのか。

この姑、娘が網や舟を所有している網元のような
有能な漁師ペテロと結婚したことを喜んでいた。

安心していたら、ペテロはイエス様に従い、献身して、
舟や網を捨て、家や親も捨ててイエス様に
従って行った。

これを聞いたペテロの姑は熱病で倒れるほどの大きなショックを受けています。

ペテロは気が変になったのか。
ナザレで大工をしていたイエスにすべてを
捨てて従って行く。
なぜそのような決心をしたのか。
これから娘の家庭の生活はどうになって行くのか。
心配で心配で熱病になって倒れてしまった。

カペナウムの会堂で教えられたイエス様。
そこにいた悪霊に憑かれた人を癒やされた。
会堂のすぐ近く、カペナウムの町で、ペテロの姑は将来を心配し
て不安の中、熱病になってしまって苦しんでいる。
この姑に安心を与えるため、イエス様は率先してペテロ宅に赴
かれました。

イエス様は熱病で苦しんでいる姑の手をとって
起こされ、熱病を癒やされました。

この癒しを通して姑はイエス様が救い主、メシヤであることを信
じ、人々をもてなし、主イエス様に仕えるようになりました。

マタイ 10:37

わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。また、わたしよりも息子や娘を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。

10:38 自分の十字架を負ってわたしについて来ない者は、わたしにふさわしい者ではありません。

10:39 自分のいのちを自分のものとした者はそれを失い、わたしのために自分のいのちを失った者は、それを自分のものとします。

マタイ16:24

それから、イエスは弟子たちに言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来てなさい。

16:25 いのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしのためにいのちを失う者は、それを見いだすのです。

16:26 人は、たとい全世界を手に入れても、まことのいのちを損じたら、何の得がありましょう。そのいのちを買い戻すのには、人はいったい何を差し出せばよいでしょう。

イエス様は2度、厳しい信仰の道を語られました。
このように忠実に真摯にイエス様に従って行くことは
大切です。

私たちに信仰、忠実、献身を求められるイエス様は
私たちを守って下さり、家族の心配を
取り除いて下さいます。

ペテロの獻身が心配でたまらなかった姑、
熱病の癒しを受けて、
イエス様をもてなしています。
マルコでは姑は人々のもてなしをしています。

救われたばかりのペテロの姑は
主イエス様に仕え、人々に仕えています。

私たちの信仰が
主に仕える、
主が愛しておられる人々、
家族に仕えて行くことあります。

主に仕えて行くこと、家族を大切にしていくこと、
このバランスをうまくとれないことがあっても
イエス様御自身が私たちの足りない所、欠けを
補って下さることをここで証してくださいます。
主の愛、主が補ってくださることを信じて
安心して主に従って行きましょう。

祈り